

◆ 今週のコメント

- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の本年初めての報告が1例(女, 70歳代)あります。感染症法施行(平成11年4月)以降の累積報告数は12例で, 10歳未満が1例, 30歳代が2例, 50歳代が1例, 60歳代が3例, 70歳代が4例, 80歳代が1例となっており, 60歳以上が66.7%(8例)を占めています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は, 0.07(3例)で, 第34週(8月23日～29日)以降連続して報告があります。全国の定点当たり報告数は, 0.34で, 過去5年平均値(0.19)を大きく上回っています。例年12月頃に流行のピークを迎えますが, 今年は例年より早く患者数の増加が始まっていますので, 今後の動向にご注意ください。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は, 0.37(15例)で, 過去5年平均値(0.09)を大きく上回っています。第33週(8月16日～8月22日)以降, 過去5年平均値を上回る状態が続いていますので, 今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は, 0.17(7例)です。本年は, エンテロウイルス71型が多く検出されています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.98	81
	② 流行性耳下腺炎	0.63	26
	③ 突発性発しん	0.56	23
	④ 水痘	0.46	19
	⑤ 伝染性紅斑	0.37	15
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

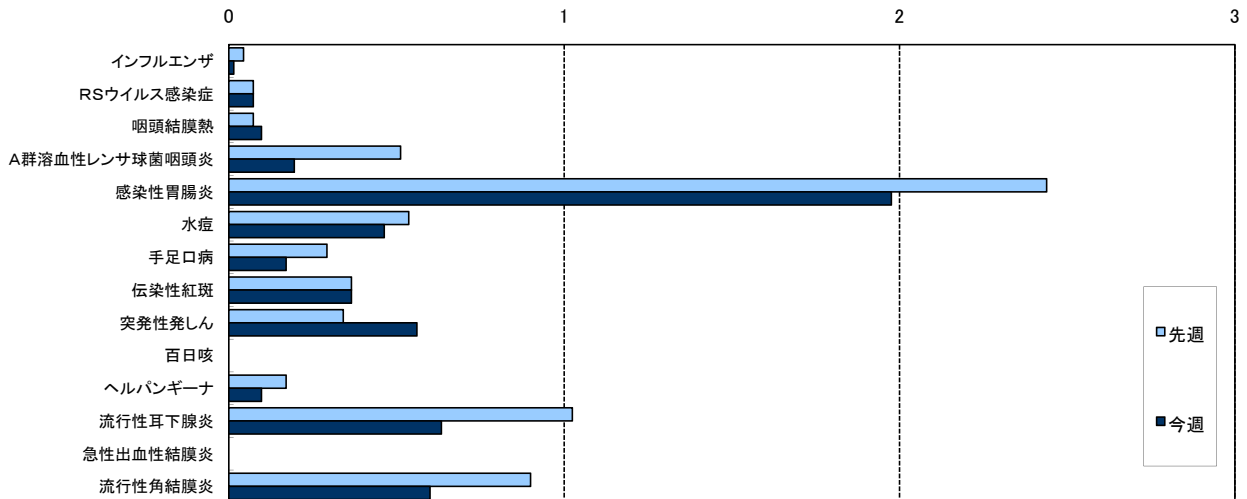
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

(注) 京都市のデータは, 平成22年10月21日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

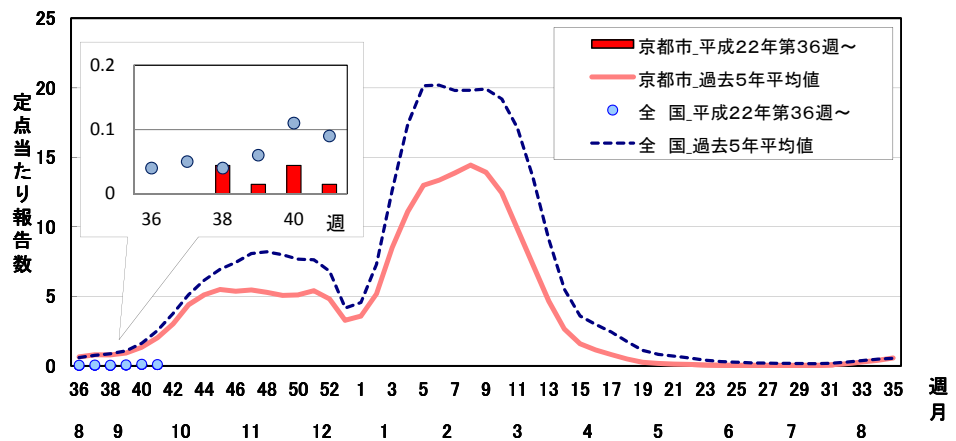
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第41週)と先週(第40週)の定点当たり報告数の比較



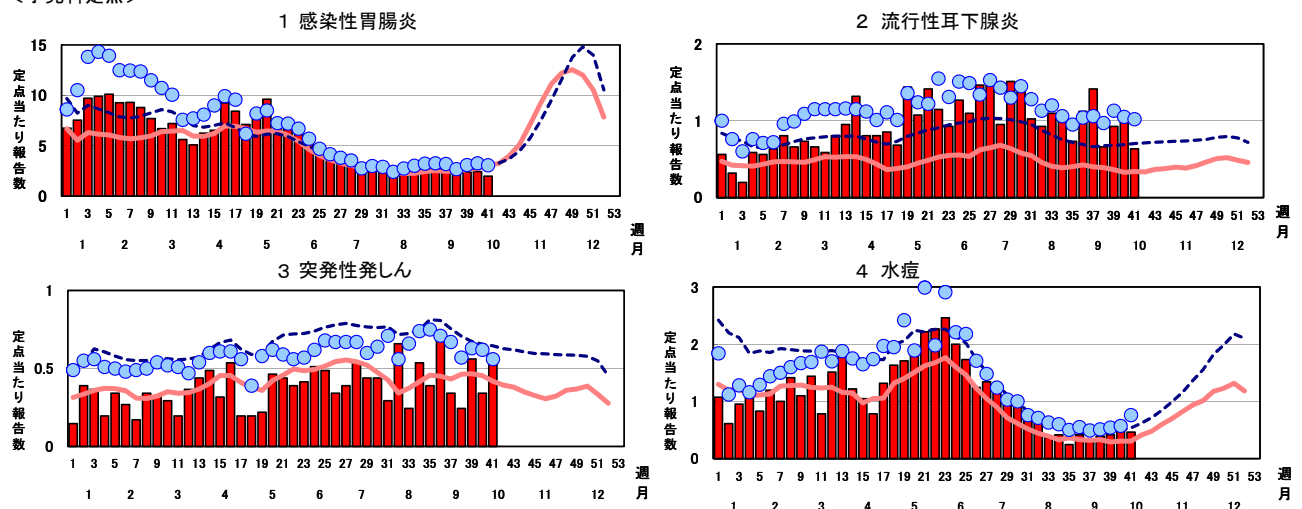
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第37週	0
第38週	3
第39週	1
第40週	3
第41週	1
累積報告数 (第36週以降)	8

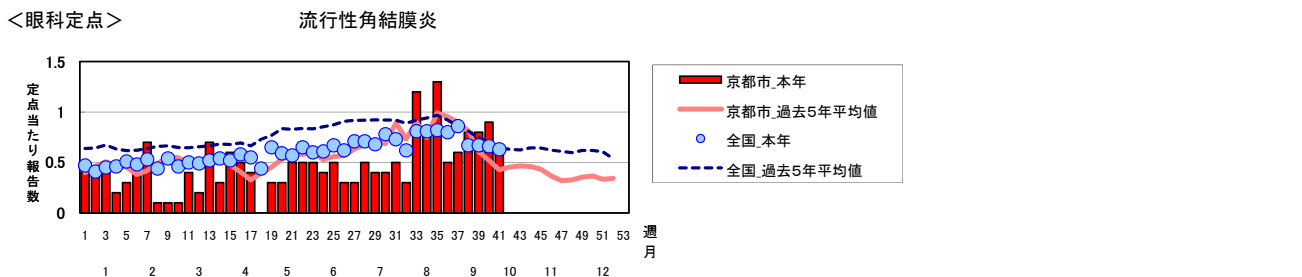


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第41週(10月11日～10月17日)トピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、0.17(7例)で、第27週(7月5日～7月11日)をピークに、減少を続けています。本年は、過去5年平均値と比べると、ピークが約1箇月早くなりました。

手足口病は、数年ごとに比較的大きな流行がみられる疾患であり、本年第41週までの累積報告数は1586例で、過去5年平均値(780.2例)を上回る、大きな流行となりました。

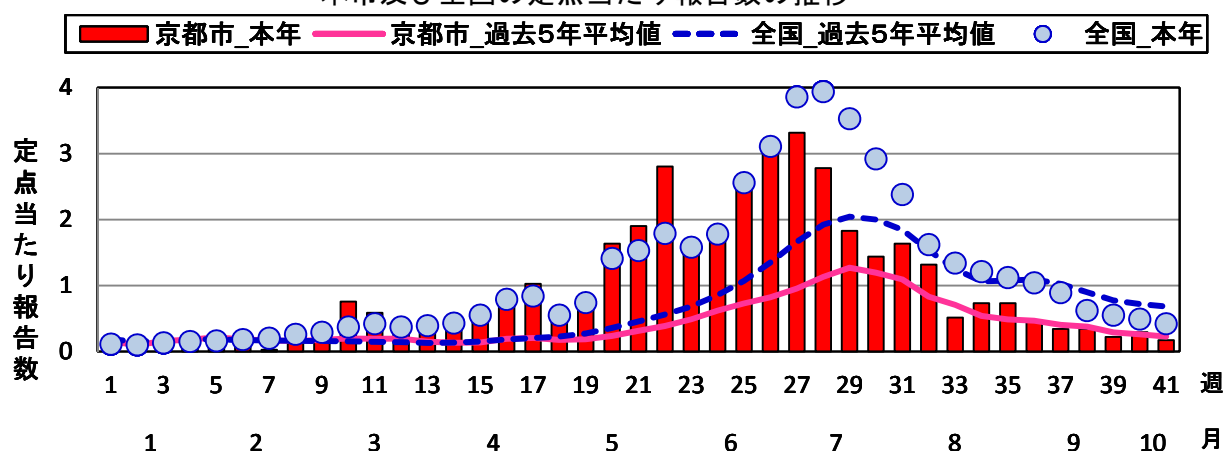
本年は、手足口病の原因ウイルスの一つで、中枢神経合併症の発生率の高い、エンテロウイルス71型(EV71)が多く検出されています。

EV71は、京都市衛生環境研究所において、17検体から検出され、診断名は、手足口病が最も多く9例(内2例に、髄膜炎症状あり)、無菌性髄膜炎が4例、下気道炎、かぜ症候群が各1例、その他が2例となっています。

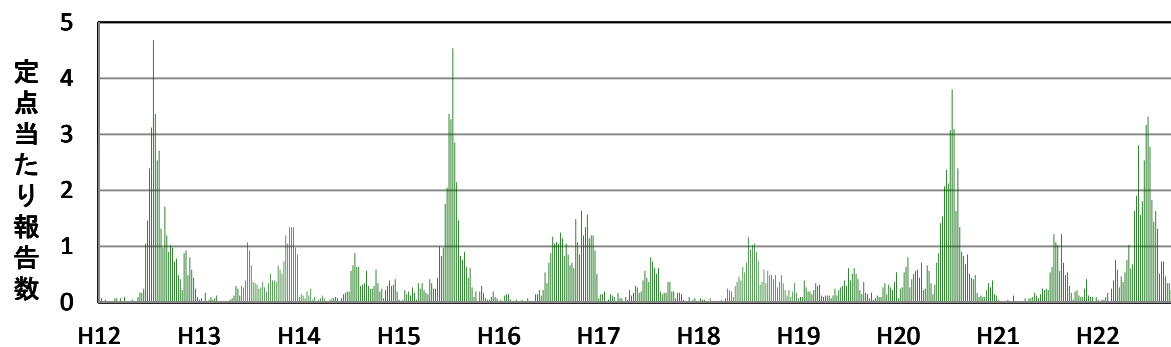
また、本市で検出した病原体検出情報(10月20日現在)を、ホームページに掲載しましたのでご覧ください。

京都市感染症情報【病原体情報】 <http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000072537.html>

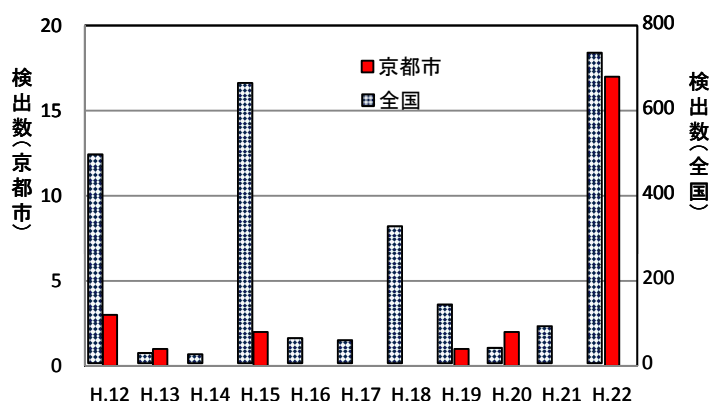
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



定点当たり報告数の推移(平成12年～平成22年第41週)



EV71検出数の推移(病原微生物検出情報)



EV71を検出した検体の診断名内訳

診断名	検体数
手足口病	7
手足口病(髄膜炎症状あり)	2
無菌性髄膜炎	4
下気道炎	1
かぜ症候群	1
その他	2
計	17